



オーベクス株式会社

2025年3月期決算補足説明資料

2025年5月12日



01 — 会社概要

02 — 事業内容

03 — 2025年3月期決算概要

04 — 配当について

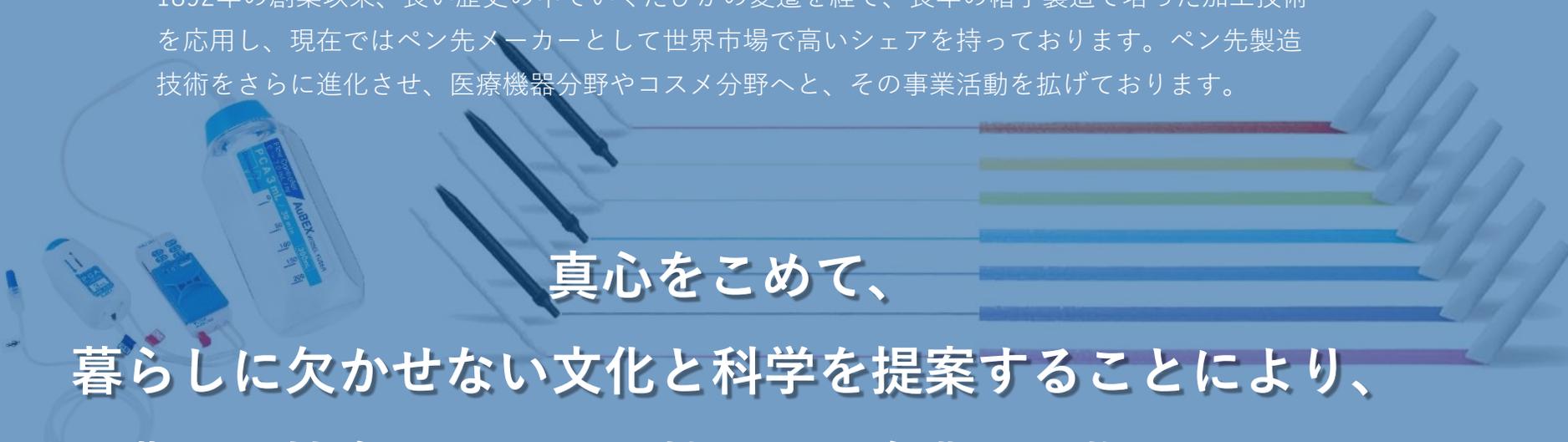
05 — 中期経営計画

06 — サステナビリティについて

商号	オーベクス株式会社
資本金	19億3,983万円
代表者	代表取締役社長 栗原 則義
創立	1892年（明治25年）12月12日
設立	1893年（明治26年）12月29日
本社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連絡先	TEL：03-6701-3200(代) / FAX：03-6701-3023
事業内容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従業員数	125名（連結 368名） ※2025年3月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。

1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。



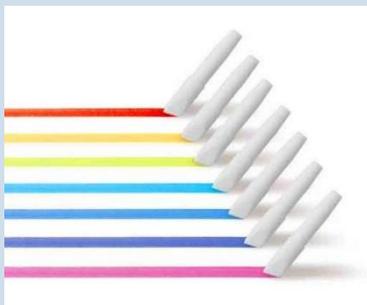
**真心をこめて、
暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、
豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。**

テクノ製品事業の売上構成比率は71.8%

- 主力製品は、サインペン先などの筆記具関連とアイライナー用ペン先などのコスメチック関連、その他スタイラス用ペン先などの PC 周辺関連や芳香剤用芯などを取り扱っています。

ペン先製品の特徴

1950年代からフェルトペン先の供給を開始して以来、ポリエステル繊維、ナイロン繊維、アクリル繊維、エンジニアリングプラスチック等を原料としたペン先の生産を行っており、長年積み重ねてきた信頼性と技術開発力は、高い評価をいただき、世界各国の有名筆記具メーカーにご採用いただいております。



コスメ用製品の特徴

ペン先製造で長年積み重ねてきた信頼性と技術開発力は、コスメチックフィールドに活かされ、高い評価をいただいております。

しなやかなチップが特徴のアイライナーを始め、アイブ로우用、リップライナー用、ネイルケア用、ネイルアート用など、メイク用からケア用まで幅広いバリエーションでご要望にお応えしております。

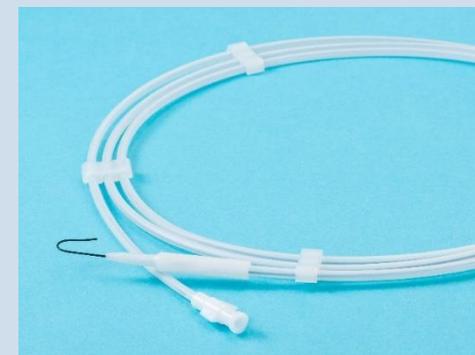


メディカル製品事業の売上構成比率は28.2%

- 主力製品は、自社開発の流量制御チューブを採用した加圧式医薬品注入器と操作性を追求した親水性ガイドワイヤー、その他医療用部材を取り扱っています。

メディカル製品の特徴

当社の流量制御技術から生まれた加圧式医薬品注入器は、フローコントローラーと制御チューブを組み合わせることで、他社にはない多段階の切替が可能です。これにより流量を1時間あたり、0.5mLからコントロールすることが可能です。循環器科・心臓血管・冠動脈造影・カテーテル造影検査に特化したガイドワイヤーは、独特の先端形状により、主血管から側枝血管への迷入を軽減させ、親水性ポリマーコーティングで摩擦抵抗を少なくし、操作性を高めています。安全性・機能性を追求し、それぞれの医療シーンに合わせたラインナップで患者様のQOL（quality of life）の向上に貢献しています。



決算サマリー

連結売上高 12.0%増収 営業利益 50.1%増益

- グループ技術を結集した新製品開発への取組みを強化
- テクノ製品事業では、中国を含むアジア地域と国内の売上が伸長
- メディカル製品事業では、積極的なプロモーション活動と販売活動に注力

売上高

60.3億円

前期比 +12.0%

営業利益

8.4億円

前期比 +50.1%

テクノ製品事業

売上高

43.3億円

前期比 +14.2%

セグメント利益

10.6億円

前期比 +43.2%

メディカル製品事業

売上高

17億円

前期比 +6.9%

セグメント利益

1.2億円

前期比 △17.8%

損益計算書（P/L）

- ・売上高は、テクノ製品事業、メディカル製品事業ともに好調に推移し、12.0%増の6,035百万円。
- ・営業利益は、テクノ製品事業におけるアジア地域での販売増加および高付加価値製品の売上が伸長し、50.1%増の841百万円。
- ・営業利益率は、13.9%となり、前期比で3.5ポイント増加。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比32.9%増の580百万円。

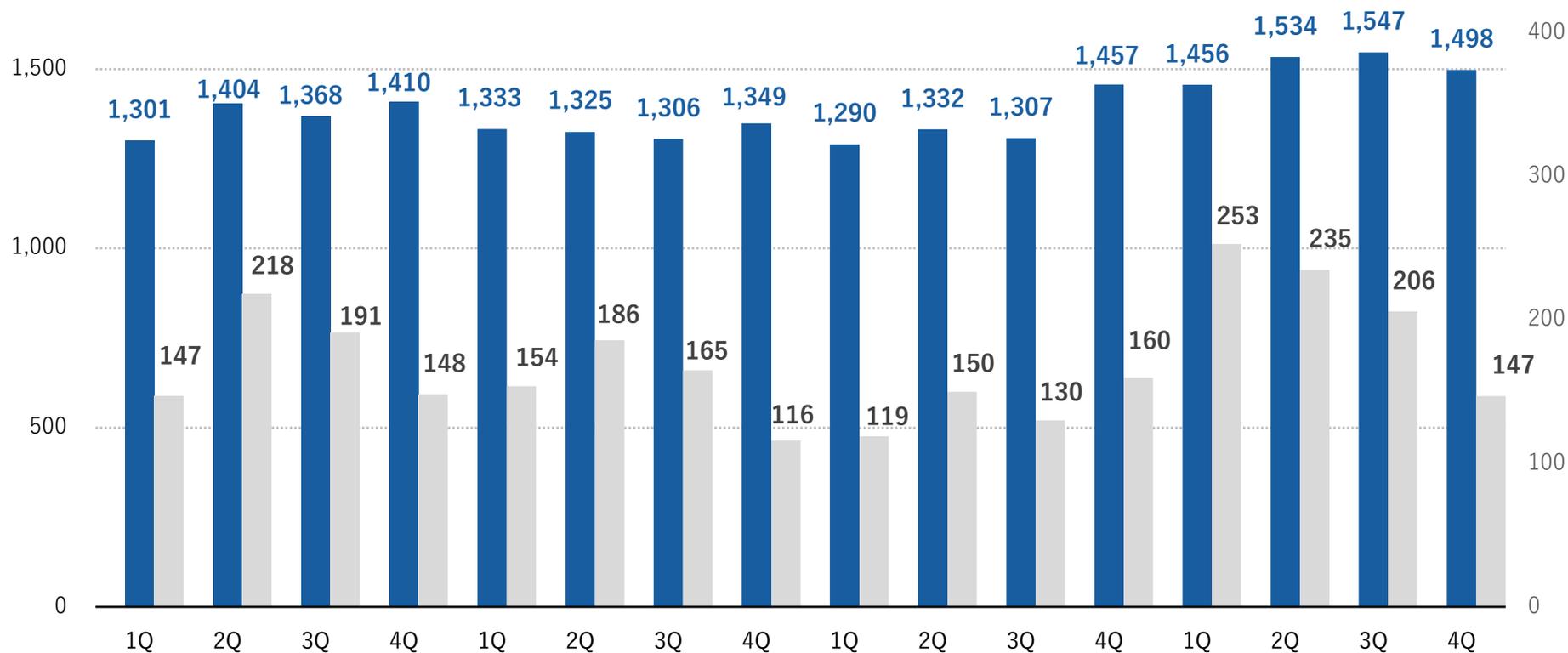
（百万円）

	2025年3月期				前期比
	第1四半期	第2四半期 累計期間	第3四半期 累計期間	通期	
売上高	1,456	2,991	4,538	6,035	+12.0%
営業利益	253	488	695	841	+50.1%
経常利益	271	453	697	814	+35.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	179	302	454	580	+32.9%

売上高・営業利益の四半期推移

■ 売上高 ■ 営業利益

(百万円)



2022年3月期

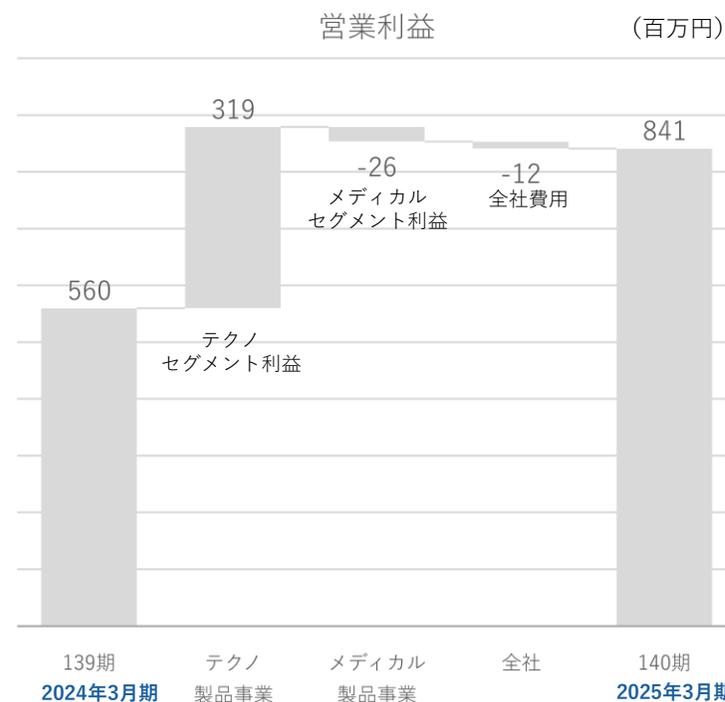
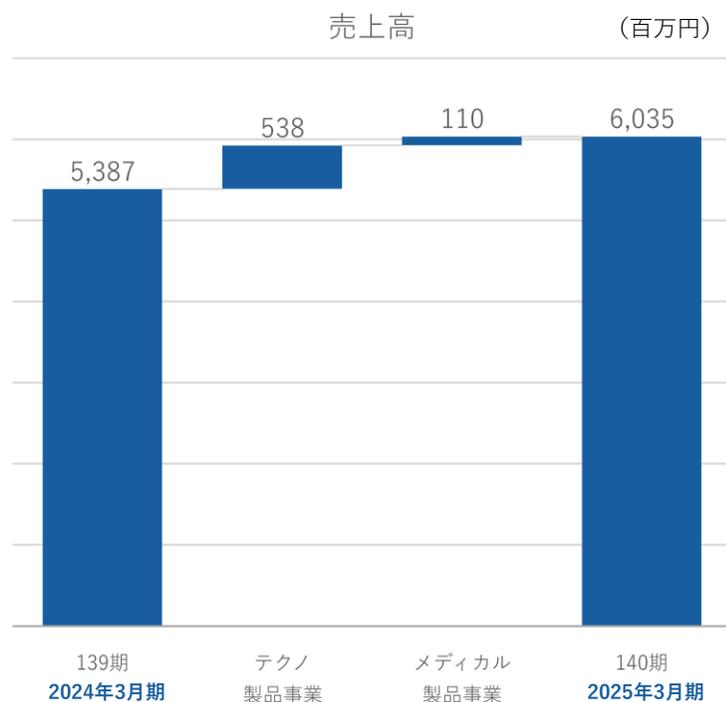
2023年3月期

2024年3月期

2025年3月期

売上高・営業利益の増減要因

- ・売上高は、テクノ製品事業の主力製品である筆記具関連が好調に推移したことに加え、メディカル製品事業ではシェア拡大に向けた販売活動に注力した結果、前期比で648百万円増加。
- ・販売管理費が前期比で137百万円増加したものの、テクノ製品事業におけるアジア地域での販売増加および高付加価値製品の売上が伸長した結果、営業利益は、前期比で281百万円増加。



セグメント別状況

テクノ製品事業

中国を含むアジア地域の売上が好調に推移。主力製品である筆記具関連の高付加価値製品の売上伸長により増収増益。

メディカル製品事業

積極的なプロモーション活動の展開により、売上は好調に推移したものの、海外展開に向けた費用等の増加により増収減益。

(百万円)

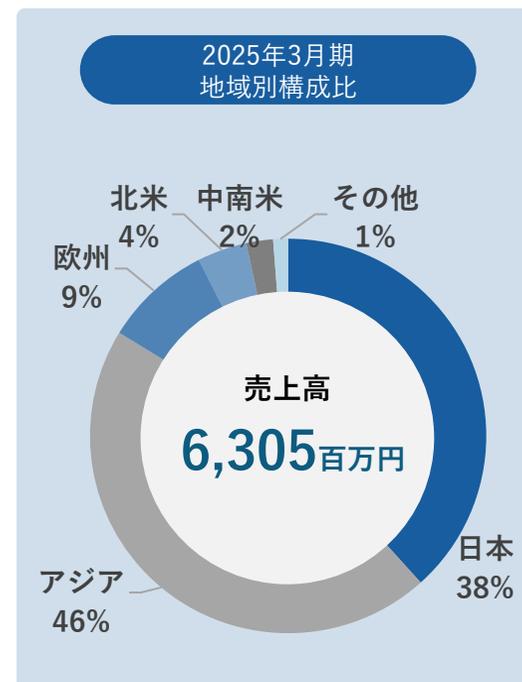
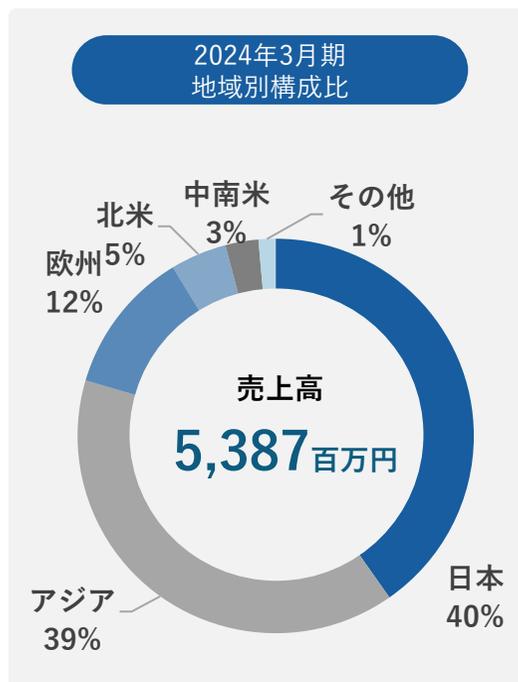
	2024年3月期		2025年3月期		前期比 (%)	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
テクノ製品事業	3,796	741	4,334	1,060	+14.2	+43.2
メディカル製品事業	1,590	150	1,701	123	+6.9	△17.8

地域別売上状況

欧州地域の売上は低調に推移したものの、日本国内および中国を含むアジア地域の売上が伸長。

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	前期比 増減率(%)
日本	2,168	2,329	+7.4
アジア	2,115	2,635	+24.6
欧州	633	560	△11.7
北米	248	281	+13.3
中南米	145	154	+6.2
その他	75	74	△1.0
合計	5,387	6,035	+12.0



キャッシュ・フローの概況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、637百万円の資金の増加。（前期は、1,054百万円の資金の増加。）
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により159百万円の資金の減少。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により561百万円の資金の減少。
- ・ 当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、90百万円減少し、2,750百万円。

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるCF	1,054	637
投資活動によるCF	△164	△159
財務活動によるCF	△450	△561
現金及び現金同等物の増減額	452	△90
現金及び現金同等物の期末残高	2,840	2,750

貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2024年3月期	2025年3月期	増減
流動資産	6,342	6,585	242
固定資産	3,378	3,257	△121
有形固定資産	3,062	2,944	△118
無形固定資産	30	33	2
投資その他の資産	285	279	△5
資産合計	9,721	9,842	121

（百万円）

負債・純資産の部	2024年3月期	2025年3月期	増減
流動負債	1,748	1,639	△108
固定負債	1,716	1,495	△221
負債合計	3,465	3,135	△330
株主資本	6,067	6,529	462
資本金	1,939	1,939	–
資本剰余金	518	517	△1
利益剰余金	3,810	4,328	518
自己株式	△201	△256	△55
その他の包括利益累計額	189	178	△10
純資産合計	6,256	6,707	451
負債・純資産合計	9,721	9,842	121

2025年3月期

自己資本比率

68.1%

流動比率

401.7%

固定比率

48.6%

2026年3月期 業績予想

- 今後の経済環境の見通しにつきましては、長期化するロシア・ウクライナ情勢や中東情勢に加えて、世界的なインフレ傾向や各国の通商政策等の影響を受けて世界経済の減速懸念が高まり、先行きは不安定な状況が続くものと思われます。2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、売上高6,200百万円、営業利益750百万円、経常利益730百万円、親会社株主に帰属する当期純利益510百万円を見込んでおります。

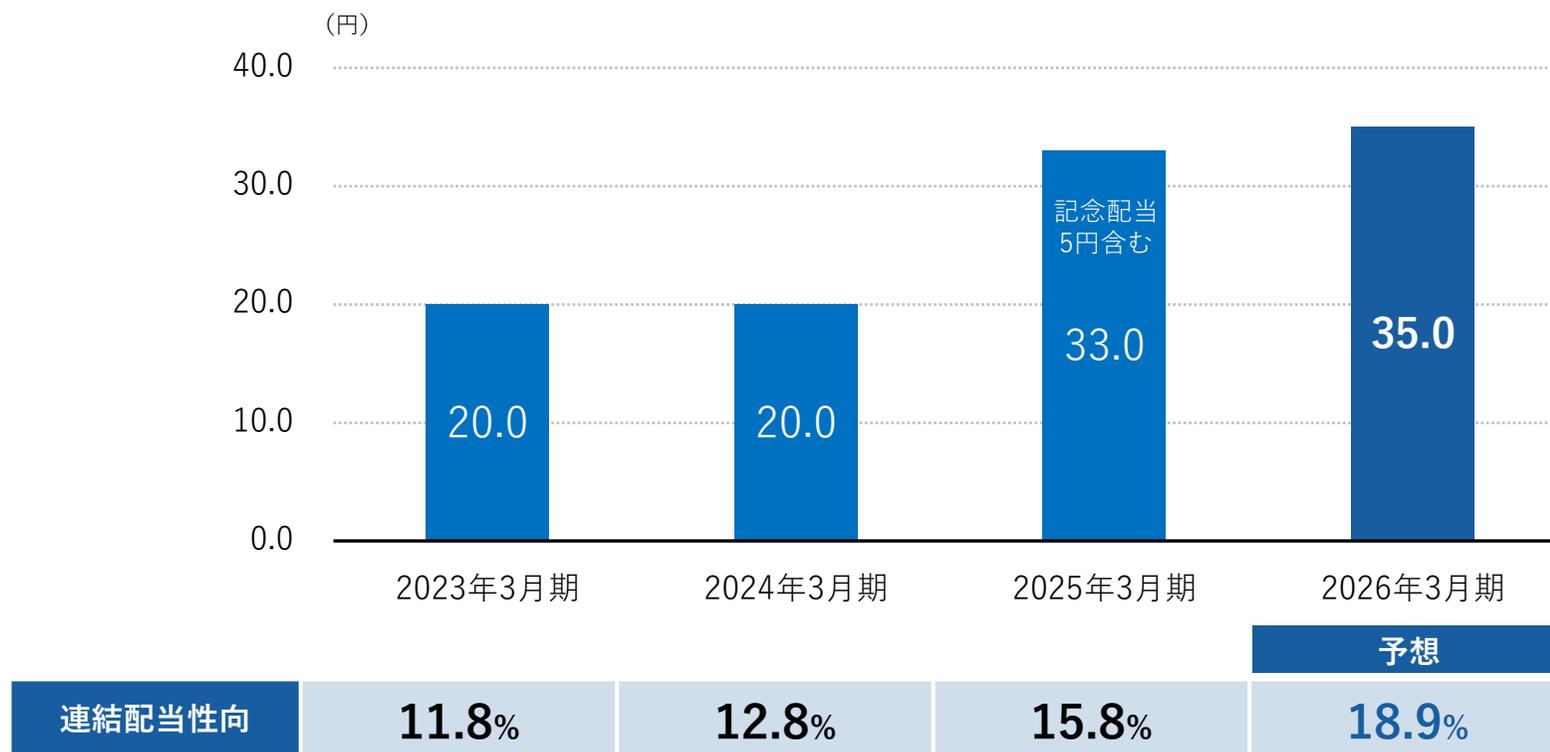
(百万円)

	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)	前期比 (%)
売上高	5,387	6,035	6,200	+2.7
営業利益	560	841	750	△10.9
経常利益	600	814	730	△10.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	436	580	510	△12.1

配当方針

利益配分につきましては、将来に備え企業体質の強化を図るとともに、会社を取り巻く環境を勘案しつつ、業績に応じた利益還元に努めるとともに長期安定的な配当を継続することを基本にしております。

配当金の推移



第8次中期経営計画 オーベクスビジョン2024（2022年度～2024年度）

- 基本方針 新市場（スタンダード市場）において持続的成長と企業価値向上を具現化する
- スローガン 「Change + Update “チェンジ プラス アップデート”」
- グループ基本戦略
 - ① 既存事業強化による事業拡大と持続的成長に向けた設備投資
 - ② 技術を結集した新製品開発および新分野への展開
 - ③ スタンダード市場の上場維持基準適合への取組み推進
 - ④ 多様で柔軟な働き方と環境負荷低減活動の推進

最終年度 定量目標（連結）

売上高

62 億円

営業利益

8.3 億円

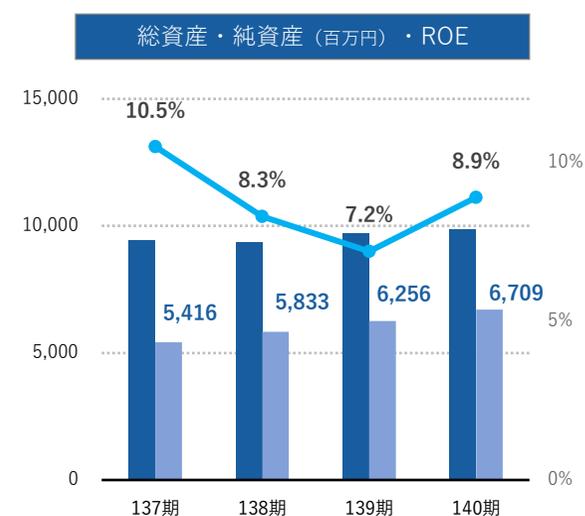
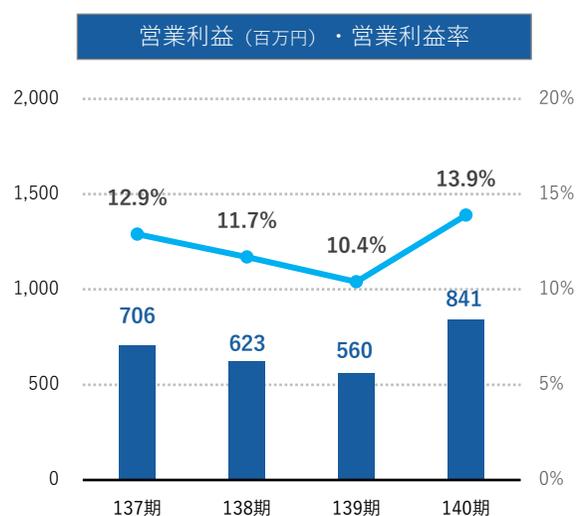
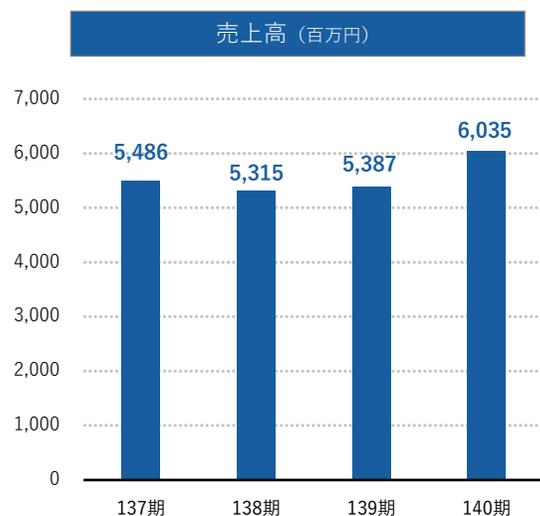
設備投資（3ヶ年合計）

設備投資

10 億円

- ・コロナ禍やウクライナ侵攻等の影響があったものの、最終年度はテクノセグメント、メディカルセグメントともに売上は伸長。
- ・テクノセグメントにおいて、最終年度は高付加価値製品の販売が好調に推移し、営業利益は大きく伸長。

	第7次中期経営計画 最終年度実績（2022年度/137期）	第8次中期経営計画 最終年度目標（2024年度/140期）	結果 最終年度実績（2024年度/140期）	計画比
売上高（百万円）	5,486	6,200	6,035	△165
営業利益（百万円）	706	830	841	+11
営業利益率（%）	12.8%	13.4%	13.9%	+0.5 ポイント
ROE（%）	10.5%	8%以上	8.9%	+0.9 ポイント



■ テクノ製品事業

アジア地域の売上が大きく伸長。高付加価値製品の拡販により収益が拡大。

■ メディカル製品事業

ベセルフューザー化学療法用が国内シェアトップを獲得（※自社調べ）。

ベセルフューザー無痛分娩用の認知度拡大。

	成果	課題
テクノ製品事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記具用高付加価値製品の大型受注 ・ 高付加価値製品の新規受注による収益拡大 ・ アジア地域の売上拡大 ・ マーケティング戦略室の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高成長エリアでの市場拡大 ・ 海外販売拠点の在庫適正化 ・ 生産キャパシティの増強 ・ 新規事業の創出
メディカル製品事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベセルフューザー化学療法用が国内シェアトップを獲得（※自社調べ） ・ ベセルフューザー無痛分娩用のプロモーション活動推進による認知度拡大 ・ ベセルフューザー自販開始による企業知名度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベセルフューザー無痛分娩用の拡販 ・ 製品企画開発力の強化とスピード化 ・ ベセルフューザーのグローバル展開 ・ 生産キャパシティの増強
全社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上場維持基準の適合 ・ 借入金の圧縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働力人口が減少していく中での人材確保 ・ 資本コストや株価を意識した経営の推進

サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道德経済合一説」（仁義道德と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

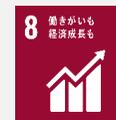
環境 Environment

大気汚染対策 廃棄物対策
環境に配慮した製品開発



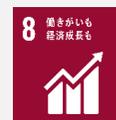
社会 Social

働き甲斐のある職場環境 人財育成
人権の尊重 地域社会への貢献



ガバナンス Governance

コンプライアンス（法令と社会規範の遵守）
積極的な情報開示 リスク管理



本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

IRに関するお問い合わせ

https://www.aubex.co.jp/contact_request/

オーベクス株式会社

コーポレートサイト <https://www.aubex.co.jp/>